

訂 正

訂正：就労介護者の仕事と家庭役割間の葛藤と ケアマネジャーによる就労継続支援の判断、 就労介護者の特性との関連

Erratum: Relations of Working Caregiver Work–family Conflicts to Assessment of Care Manager Support for Continued Employment and to Working Caregiver Characteristics

日本看護科学会誌第 42 巻 (2022) 原著 pp. 31–39

就労介護者の仕事と家庭役割間の葛藤とケアマネジャーによる就労継続支援の判断、就労介護者の特性との関連
深山華織, 河野あゆみ

におきまして、下記のとおり、訂正いたします。

なお、これらの訂正は、研究結果や結論に影響はありません。

p. 32

《誤》

WFC には、概念的に異なる「仕事から家庭への葛藤 (Work Interference Family : WIF)」と「家庭から仕事への葛藤 (Family Interference Work : FIW)」として説明される (Duxbury et al, 1994).

《正》

WFC には、概念的に異なる「仕事から家庭への葛藤 (Work Interference with Family : WIF)」と「家庭から仕事への葛藤 (Family Interference with Work : FIW)」として説明される (Duxbury et al., 1994).

p. 34

4. 分析方法

《誤》

調整変数を検討する際に、WIF・FIW の群別に就労介護者の個人特性、就労特性、家庭特性、要介護者の家庭特性の各変数との単変量ロジスティック回帰分析を行った。

《正》

独立変数を検討する際に、WIF・FIW の群別に就労介護者の個人特性、就労特性、家庭特性、要介護者の家庭特性の各変数との単変量ロジスティック回帰分析を行った。

《誤》

その結果、有意な関連のあった就労介護者の個人特性 (年齢、性別、婚姻状況、最終学歴、要介護者との続柄、主観的健康観、暮らし向き)、就労特性 (就業形態、1日当たりの労働時間)、家庭特性 (要介護者の年齢、性別、認知症高齢者の自立度 (厚生労働省, 2006)) を調整変数として投入することとした。

《正》

その結果、有意な関連のあった就労介護者の個人特性 (年齢、性別、婚姻状況、最終学歴、要介護者との続柄、主観的健康観、暮らし向き)、就労特性 (就業形態、1日当たりの労働時間)、家庭特性 (要介護者の年齢、性別、認知症高齢者の自立度 (厚生労働省, 2006)) を独立変数として投入することとした。

p. 38

《誤》

先行研究（熊谷ら，2020）と同様に主観的健康観が悪い者は良い者と比べて，FIW が低かった。

《正》

先行研究（熊谷ら，2020）と同様に主観的健康観が悪い者は良い者と比べて，FIW が高かった。

日本看護科学学会「日本看護科学会誌」編集委員会